

令和7年度 学校評価総括表

香芝市立香芝北中学校

教育目標		県教委・市教委の教育方針を踏まえ、予測困難な時代をたくましく生き抜き、よりよい社会の創り手となる生徒の育成を目指す。				総合評価
運営方針		「明るくて」「楽しくて」「安全で安心できる」学校の構築				B
前年度の成果と課題		本年度の重点目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・グランドデザインのもと、学校行事や部活動に積極的に参加している。 ・わかりやすい授業づくりを進める。 		<ul style="list-style-type: none"> ・安全で安心できる学校環境を整え、「笑顔と元気」をグランドデザインのキャッチフレーズに掲げ、何事にも進んで取り組む生徒を育成する。 ・わかりやすい授業、興味関心を高める授業づくりに向け、研修を充実させ、指導力の向上に努める。 ・支援を必要とする生徒への対応について、全教職員の共通理解のもと、それぞれの立場を自覚し生徒に寄り添いながら取り組む。 				
教育活動や分掌等	評価項目	具体的方策・評価指標等	評価	成果と課題(評価の分析)	課題の改善策等	学校関係者評価
教育目標 教育方針	学校の教育目標やキャッチフレーズの内容を知っている。	学校通信を通じて教育目標の具現化を行い生徒・保護者に周知を図る。	B	保護者の評価はあまり変化はないが、生徒の評価は向上している。生徒集会や始業式、終業式等で機会あるごとに話を行い、通信等を通じて周知した。考え方は少しずつ浸透している。	生徒には生徒集会等やことあるごとに話をしたり、保護者にはPTA総会や三者懇談会、オープンスクール等を活用し、周知に努める。また、グランドデザインの視覚化にも努める。	グランドデザインということばは生徒・保護者に認知されにくく、グランドデザインからキャッチフレーズに文言を変えたので生徒は理解し数値が上がったのではない。学期に1回くらいは、学校目標、学年目標、に照らし合わせて、生徒と振り返り評価し新たな目標や内容について記事にするなどして保護者に発信してはどうか。命に関わる教育は取組の成果が表れている。
	学校は人権や命の大切さについての学習に取り組んでいる。	人権教育推進計画及び道徳教育推進計画に基づいて取組を進める。	A	組織的に指導内容が検討され、取組が行われていることで生徒の学習に対する意識も向上した。	生徒の命を守ることが一番の責務と考えており、引き続き心響部を中心に教材を選定し、人権教育と道徳教育を両立させながら、具体的な事例を取り上げながら命の教育を積極的に行っていく。	
教科学習	生徒たちは授業を積極的に受け、内容をほぼ理解できている。	新学習指導要領に基づき3つの資質を育成するため教科会議を中心に授業づくりに取り組む。	A	生徒の80%弱が肯定的な評価をしている。保護者の評価は生徒ほどではないが、前年度より幾分向上した。引き続き学校としての授業改善に取り組んでいく。	生徒一人一人の定着度を可能な限り把握し、声掛けをしたり、課題を出したりしながら、可能な限り個に応じた学習支援の方法を考える。	先生方はICT機器の活用等工夫して授業を行ったり、生徒とのやりとりを通して考えさせる授業があったのは良かった。生徒が真面目に主体性を持って授業を受けようとする雰囲気を感じられるグローバルな視野を持った人材育成をお願いしたい。いっそうわかりやすい授業づくりに努めてほしい。「楽しく学校生活を送れている」という設問に否定的な評価の生徒にしっかりと目を向けみんなが楽しく学校生活が送れるように取り組んでいただきたい。
	先生はわかりやすく授業を行ってくれている。	ICT機器を効果的に活用し、生徒の理解の深化を促す。わかる授業に務める。授業で「できた」「わかった」という楽しさを実感させる。	A	90%以上の生徒が肯定的な評価しており、保護者の肯定的な回答も昨年度に比べて増加している。	「できた」「わかった」という楽しさを実感させる授業の工夫に努める。教員同士お互いの授業を参観しあう取組やICT支援員と二人三脚による授業づくりをいっそう活性化していく。	
	生徒たちは楽しく学校生活を送れている。	生徒を真ん中に学校と保護者がいっそう連携しながら、一人一人の生徒とていねいに関わる。	B	肯定的な評価が大半であるものの、否定的な評価をしている3%弱の生徒と10%強の保護者を今後好転させる取組が必要である。	これまで以上に生徒一人ひとりを大切に、寄り添う指導を徹底し、3%弱の否定的な回答をした生徒にしっかりと目を向けながら教育活動に当たる。	
特別活動	生徒たちは学校行事や係活動、委員会活動に積極的に取り組んでいる。	各自が活躍できるような学校行事や係・委員会活動になるように仕掛けを工夫する。	A	体育大会や校内音楽会は高いクオリティで実施できた。委員会・生徒会も生徒の主体性を活かした運営がされている。生徒、保護者共に90%強が肯定的な評価をしている点は大きく評価できる。	委員会活動や生徒会活動において新しい発想を取り入れながら、生徒が活躍できる機会を教員が意図的に作る事ができている。	体育大会や校内音楽界で生徒が力を合わせて頑張っていたが、それまでに取り組んだ練習の過程が生徒の成長の糧となったと思う。生徒自身が自ら考え行動したことで積極的に関わった生徒がとて多かった。積極的に行事に参加することで達成感を得ることで自己肯定感の醸成にもつながり、幅広い視野を持った人材を育成できている。今後もいっそう生徒の自主性や主体性を高める活動ができるように積極的に自主的に意欲的に取り組めるいろいろな機会を作ったり仕掛けづくりを今後もお願いしたい。
	生徒たちは部活動に積極的に参加している。	生徒が活動を通して自己実現できるような部活動の運営を行う。	A	生徒・保護者とも約80%が肯定的な評価をしている。また教員も業務多忙中、お互いに協力しあいながら、熱心な指導を行っている。	令和8年度から実施される休日部活動の地域移行を見越し、教員の働き方改革等、部活動を取り巻く環境も変化に合わせながら、可能な限り生徒の活動を充実させていく。	
生徒指導	生徒たちは学校の決まりやマナーをきちんと守っている。	学校生活全般において規範意識を培う指導を行う。	A	生徒および保護者の95%以上が肯定的な評価をしている。	校内においては一定規範意識を高く持ちながら過ごしているが、後登下校時のマナー向上など課題はある。家庭や地域とも連携し進めていきたい。	「気分の良いあいさつ」ができる生徒が年々増えている。また、声をかければ返してくれる生徒もとても増えているように感じる。生徒の心の穏やかさ、健やかさ、朗らかさが育まれていることが実感できる。ボランティアとして調理実習補助に参加したときにも、「ありがとうございます」言ってくれる生徒がたくさんいる。さりげない挨拶ができる生徒がどんどん育っているように思う。教職員が一丸となって根気強く日常の取組を進めていることが生徒一人一人にも伝わっており、その結果落ち着いた雰囲気が構築されている。不登校支援はとても重要な取組である、一人一人の背景が異なることを大事にし生徒、家庭に寄り添った支援、取り組みを期待したい。市教委とも連携しつつ、学校運営協議会としてできることをしていきたい。
	学校は生徒の自主性や主体性を育む取組を積極的に行っている。	学校生活全般において自主性・主体性を育む取組を行う。	A	生徒の90%、保護者の80%以上が肯定的な評価をしている。特に保護者の肯定的な回答が増加した。	委員会活動の活性化や人の役に立つ行いの推奨など、生徒の自己有用感や自己有用感を高める取組をいっそう増やして行きたい。そして、自ら学び、自ら考え、自ら行動できる生徒の育成に努める。	
	学校はいじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる。	学校生活全般においていじめ未然防止の取組といじめ見逃しゼロを目指した取組を行う。	B	生徒の13%、保護者の16%が否定的な評価である。特に保護者の肯定的な評価が数%であるが向上した。さらに学校としての取組を進めていく。	生徒について教員間での情報交換を活発に行い、些細なことも見逃さないような体制づくりを行う。	
	先生は生徒の悩みや不安を受け止めて相談ののってくれている。	生徒一人ひとりにていねいに向き合い、個の特性に応じたきめ細やかな指導を目指す。	B	昨年度増加した保護者の肯定的な回答がさらに増加し80%以上になった。教職員も常に生徒に寄り添いよい関係作りを努めている。両者に良い関係性が構築されている。	教員としてカウンセラー的な側面とコーチ的な側面の両方が必要である。日常的に生徒に目を配りながらタイムリーに声掛けし、傾聴していくことが大切である。	
	先生は生徒のことを思いきちんと叱咤激励してくれている。		B	肯定的な回答が生徒は90%、保護者は80%以上を越えていることを大いに評価したい。教職員は期待に応えるためにも一層情熱を持って取り組みたい。		
環境整備	生徒は日々しっかりと清掃している。	生徒に清掃の重要性を感じさせた上で、教職員全員で清掃指導にあたる。	A	90%以上の生徒が肯定的な評価しており、教員からの評価も高い。	清掃の意味をしっかりと考えさせ、日常の清掃活動をさらに充実させていきたい。	日頃の指導のおかげでとてもきれいな学校が保たれている。設備不良等があれば速やかに対応をお願いしたい。環境は人を育てる。最大の環境は「人(先生や友)」であるが、それを包み込む清潔で美しく落ち着いた環境はとても大事である。維持されることを期待している。
	学校は生徒が学習しやすい環境を整える努力をしている。	定期的に破損箇所をチェックし、不備があれば可能な限り整備にあたる。	A	生徒・保護者ともに約90%以上が肯定的な評価をしており、概ね良好と言える。	物理的な環境整備だけでなく、生徒が安全で心理的に安心して学べる環境整備を行う。	
地域・保護者との連携	学校は「便り」「HP」等により積極的な情報発信を行っている。	保護者には学年通信、PTA新聞等を通じて情報を発信している。	B	90%弱の保護者が肯定的な回答をしているが、もっと学校広報の取組が必要である。	学校からの情報発信をさらに行えるようにHPの活性化も含めた取組を行ってきたい。	保護者と学校の距離感をもっと縮めてもらえるように情報発信をお願いしたい。PTAやコミュニティ活動に携わっていない保護者に十分な理解が行き届いていないことが少し残念である。コミュニティ協議会の活動の様子を知らせたり、支援者を募集したりなどの広報を再度発行していくなど何かしらの取組が必要である。
	PTA活動や学校コミュニティ協議会の活動を積極的に行っている。	いろんな機会を通じて、学校に関わってもらい、ともに学校づくりを行う。	A	これまで同様、コミュニティ協議会が積極的に学校教育活動に参画して下さった。	ボランティアさんの数が不足している。学校が支援を受けることが多いが、学校(生徒)が地域に貢献できる取組を一歩進めることができた。	

※評価はA・B・C・Dの4段階